

△樹里安だより

ジュリアン

vol. 30



— 安行の名所 (その17) —

安行庵 《川口市安行吉蔵 306 番地》

バラが咲いた バラが咲いた 真っ赤なバラが・・・歌謡曲のように広い庭全体がバラの園だ。もうひとつの見所は夏目漱石の句碑。この二つが相俟って人気のスポットとなっている。

句碑はバラ園よりひと足早く建立された。当主の中山育之さんの祖父が近代俳句のホトトギス派に属し交友のあった高濱虚子や正岡子規が、何度か中山家を訪ねてきた。その際、同行した夏目漱石が短冊に「薺池や魚も動かぬ秋の水」と書き残していった。この足跡を残そうと昭和34年になって句碑が建立された。

バラ園の方は、バラ愛好家の中山さんと妻の純子さんが、10年ほど前から庭の雑木を伐採してコツコツとバラを植栽した。今では千平方メートルもある広い庭に原種を主体に500種が育てられ、春から秋の花見時には色とりどりの花が咲き乱れる。四季咲きの花もあるので、年中、花好きの人や俳句愛好家が集まってきている。安行庵は、中山さんの好意により入園無料で、いつでも自由に見学できる。

長徳寺の **ヒノキ** (川口市大字芝6303)

山門をくぐり抜け、ゆるやかな坂を登りつめると目前に長徳寺の本堂が現れる。境内全体がシイ、マキ、カヤなどのうっそうとした森に囲まれ、俗界をよそに静まりかえっており、長い歴史を持つお寺にふさわしい荘厳な雰囲気をかもし出している。保存樹木のヒノキは境内前庭にひときは高くそびえている。

臨済宗の同寺は、貞治3年(1364年)に創建された。慶長5年(1600年)と同16年(1611年)の2回、火災で消失したが再建され、近在の人たちや禅寺として禅修行の人たちの信仰は衰えなかった。また貴重な所蔵物も多く、いずれも埼玉県指定の文化財である長徳寺開山の師といわれる高僧の中峰明本頂相や龍派禅珠頂相の肖像画、川口市指定の文化財、獅子頭及び神楽面など古い歴史を物語る資料などが多く保存されている。

同寺の12代住職寒松にまつわる秘話もある。徳川3代将軍家光時代の元和キリシタン弾圧事件で、隠れクリスチャンで処刑された農民がおり、庄屋の16歳の娘「るひいな(クリスチャン名)」も捕らえられたが、学僧として幕府の知遇を得ていた寒松和尚の尽力で処刑を免れたという。平成時代に入ってこの秘話が話題に持ち上がると、演出家の蜷川幸雄さんが、平成2年に舞台劇として演出、公演し注目された。



保存樹木のヒノキは、本堂前庭の左側に根を下ろしている。胴回りは2.7m、樹高21mで、平成12年9月指定を受けた。すぐに隣には昭和12年3月、埼玉県の天然記念物に指定された胴回り3.3m、樹高13mのビャクシンが立ち並んでいる。いずれも樹齢は300年は越えるだろうと推定されているが、樹勢はおう盛だ。のっぼの方のヒノキはまだまだ伸びるだろうが、風雨に耐え抜いて毅然とそびえる姿は、長い歴史を持つ同寺にふさわしい風格を備えている。



ヒノキ ヒノキ科

- 分布 北は本州福島県、南は九州屋久島が生育限界である
- 樹高 20m~30m 直径は0.9m~1.5m程度
- 用途 建築材、家具材、彫刻材、庭木、盆栽など
- 樹形は鈍円錐形。樹皮は赤褐色で縦に幅広く、裂けて剥離する。
- 雌雄同株で4月頃に2~3mmの紫褐色の花が開花する。
- 葉は鱗片状で交互に対生し、先は鈍い。
- 多くの園芸品種が存在する。
- 材木としては独特の芳香を有し、強靱で腐朽や水湿に耐える上切削加工が容易であることから、古来より神社建築等に用いられている。



長徳寺のヒノキ

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在地	幹周	樹高
ヒノキ	ヒノキ科	H12.9.1	2	川口市大字芝6303	2.7m	21.0m





《川口の盆栽文化》

(第72回秋の安行花植木まつり & 大盆栽展)

大自然の風致を鉢の中で表現

川口市安行の盆栽

「植木の里・安行」といえば、植木苗木だけの産地と思われがちだが、盆栽の生産も盛んに行われている。この安行盆栽の素晴らしさを知ってもらおうと、昨年、秋の安行花植木まつりに併せ、市内に11ある盆栽団体の協力を得て大盆栽展を開催し、盆栽の魅力をPRした。

盆栽の良さは、千古の老樹の相を盆上に表現したり、深山幽谷やうっそうとした森林など大自然の風致を小さな空間に縮写表現できることだ。古い時代は、単に草木を鉢植えしたのが盆栽だったが、江戸時代に樹形に手が加えられるようになり、さらに技術改良が行われ、芸術性の高い盆栽として完成したのは明治中期と言われている

安行植木の起源は元和4年（1618年）、関東郡代伊奈半十郎忠治が利水や開墾に努める一方、植木の栽培を奨励したのが始まりとされている。明暦3年（1657年）の江戸の大火の際、江戸に植木や切り花を売り込んだ吉田権之丞によって植木産業が盛んになり、現在の植木の里安行となったが、安行の盆栽の起源については具体的な年代などは定かではないが、一部の書物にはその歴史は安行での植木生産よりも古いと思われる記述もある。また、関東大震災のあと大正14年ごろに駒込や巣鴨等から植木職人や盆栽屋が、広い土地と火山灰性土壌を求めて、安行周辺（一部は大宮盆栽村）へ移り住み、更に盆栽生産地として安行が発展したといわれている。





初期の安行盆栽は剪定だけの仕立て方であったが、やがてシュロの毛を使った「鬼毛曲げ」となり、大正年間になって東京の盆栽家から針金かけの技術を習い、風格のある盆栽を作り出していった。だが、高級品だけでなく、多種多様で大衆向きの物も多く、なんでもそろっていることも強みだ。果樹の苗木生産に使われる接ぎ木技術を活かし、年代ものの松類などを創作、また姫リンゴなどの実物の小盆栽も作り出している。一本の木に紅白を咲き分ける梅の盆

栽も接ぎ木技術の成果である。余談だが、サツキ盆栽に鹿沼土が最適だということを見いだしたのも安行の生産者だったそうだ。

盆栽は、国内ではやや伸び悩みだが、近年米国や欧州では逆に愛好家が増加しているので、海外での普及に期待がかけられている。

大盆栽展には、日本で最も権威が高いといわれる国風盆栽展で最高の国風賞を受賞した真柏の盆栽をはじめクロマツ、カエデ、ヒノキなどの直幹、模様木作りなど50点が出品され、いずれも芸術性に優れ風格のある作品に、見学者たちは感嘆の声を上げていた。



《川口市内 11 盆栽団体》

- | | |
|----------------|-------------|
| ①川口盆栽組合 | ②日本盆栽協会川口支部 |
| ③川口北部さつき会 | ④安行盆栽会 |
| ⑤日本盆栽協同組合埼玉南支部 | ⑥埼玉県輸出盆栽研究会 |
| ⑦日本小品盆栽協会埼玉南支部 | ⑧新小雅良盆栽共同組合 |
| ⑨川口鉢物生産者共販センター | ⑩新井宿盆栽会 |
| ⑪野草研究会 | |





願を立てたとき

アスナロ

(ヒノキ科 アスナロ属)
(常緑針葉樹・高木・陰樹)



この木は、“あすはヒノキになろう”と思いつけているという。樹木に強い関心を持ち続けた、日本人の空想が生んだ、木の名称の傑作。強い向上心をもつかのように、まっすぐに天をさして伸びるアスナロを、進学や目標達成の願立ての際に植えたい。あすは、あすはと思いを込めて伸びるうち、アスナロはヒノキに負けぬ30mの大木となる。材は建築用などに珍重される。

1. 特徴

開花期3～5月、結実期10月。生長は遅い。変種には小さな種類のヒメアスナロ、北海道でも育つヒノキアスナロなどがある。

2. 植えるときの注意

時期 3～5月

場所 湿気があり半日陰の場所でよく育つ。

3. 管理のポイント

せん定はあまり好まない。肥料は萌芽前の春と、葉の固まる6月頃に与えれば十分。

《他の木》



キンカン

常緑広葉樹
低木・陽樹



バクチノキ

常緑広葉樹
高木・中庸樹



ナンテン

常緑広葉樹
低木・中庸樹～陰樹



クチナシ

常緑広葉樹
低木・中庸樹



川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

1 マスコットキャラクター 「ジュリアン」発表記念セレモニー

平成23年5月5日（祝）

この度、全国24都府県116点の作品の中から川口緑化センターのマスコットキャラクター「ジュリアン」が決定いたしました。また5月の連休に併せて発表記念セレモニーを開催いたしました。



2 東日本復興支援 春の園芸フェスタ 2011

平成23年5月28日（土）～29日（日）

川口駅東口公共広場（キュポ・ラ広場）において春の園芸フェスタを開催いたしました。今年は東日本復興支援と題して、岩手県八幡平市の物産販売を併せて開催すると共に、イベント全体の売上げの一部122,623円を義援金として寄付いたしました。



3 第2回川口安行の植木・盆栽市 in 麻布十番

平成23年9月4日（日）～5日（月）

今年も港区麻布十番の「パティオ十番」において、植木・盆栽市を開催いたしました。会期中は川口特産の植木や盆栽の販売を始め、銘品盆栽の展示や盆栽の手入れデモンストレーション等のイベントを実施いたしました。また、土地柄多くの外国人もご来場され、川口産の植木・盆栽を多くの都民に紹介いたしました。



4 第20回川口安行の花・緑と物産 展示即売会

平成23年10月5日（水）～7日（金）

「新宿駅西口広場イベントコーナー」において20回目となる川口安行の花・緑と物産展示即売会を開催いたしました。会期中は川口特産の花・植木の展示販売の他出展団体によるミニ庭園の展示や各種の園芸デモンストレーションを実施し、来場者からは今年も大変好評を博しました。



お知らせ

「平成23年度 川口市産業技術・技能者顕彰制度」へ安行で緑化産業に従事する技術者を(財)川口緑化センターで推薦し、みごと「川口輝き賞」を受賞いたしました。

No	氏名	賞	業種	受賞理由
1	高山甫氏(安行梅松園)	川口輝き賞	造園工	造園技術全般(寝巻等)



花を愛する作家たち

(その1)

人類の誕生するずっと以前からこの世に生存している花木は、人間の最高の友ともいわれる。それだけに人間の生活との関わりは深く、文学、絵画、宗教などあらゆる分野に影響を与えてきた。花木と人間との関わりを紹介してみよう。

正岡子規(1867年~1902年)と明治の西洋草花

花を愛した子規の句や随筆には、花を題材にした作品が多いが、日本に渡来したばかりの西洋草花の名がよく出てくる。日本で洋種の草花園芸が盛んになったのは明治30年代だが、26年には早くもダリアを題材に作句している。「あつき名や天竺牡丹日でり草」。天竺牡丹とはダリアの和名。明治文学で最も早く洋種のバラを取り入れたのも子規。「ビール苦く葡萄酒渋し薔薇の花」などバラを題材にした句も多い。

夏目漱石(1867年~1916年)と小説「虞美人草」

教職を離れて朝日新聞に入社し、その第1作である長編小説に取りかかったが、題名がなかなか思いつかなかった。女主人公は、妖艶で驕慢、男など眼中にないといったような美人。その主人公にふさわしい題名に悩んでいた漱石が、散歩中に植木屋で草花2鉢を買った。白い花と真紅の花のついた華やかな風情が、描いていた小説のヒロインに結びついた。花の名を尋ねると「虞美人草」と教えてくれた。これだ、と悩んでいた題名が決まり、あの名作がつづられた。ちなみに和名はヒナゲシ。

泉鏡花(1873年~1939年)と花の題名

鏡花ほど花の名を題材にした作家は他には見当たらない。「薄紅梅」「黒百合」「七草」「杜若」「桜草」など実に多くあり「婦系図」にもあの有名な湯島天神の白梅が重要な役割を果たしている。花の中でも生涯にわたって愛し続けたのはアジサイだった。明治34年の作品である「森の紫陽花」の一節に《分けて見つむるばかり、うつつに見ゆるまで美しきは紫陽花なり・・・》。この作品からもアジサイによせる並々ならぬ想いがうかがえる。



ジュリアン



樹里安



川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成23年12月1日

発行：財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL 048-296-4021

ホームページ：http://www.jurian.or.jp/